

女性・学生消防団員 活躍ハンドブック



も く じ

消防団とは／活動内容紹介……	1
消防団員数の推移……………	2
女性消防団員アンケート結果…	3
女性消防団員インタビュー……	4
学生消防団員アンケート結果…	9
学生消防団員インタビュー……	10
消防団 Q & A ／消防団の待遇…	15
消防団への入団条件／ 消防団への入団方法……………	16

消 防 団 と は

消防団とは、特別区や市町村に設置される消防機関です。消防団は消火活動のみならず、地震や風水害などが発生した際の救助救出活動や避難誘導等、地域防災の要として、重要な役割を果たします。消防団員は消防士とは身分が異なり、会社員・自営業など普段は自分の職業を持っている方や、主婦、学生など地域住民の方が、消防団員として活躍しています。

消防団員の身分は、非常勤（特別職）の地方公務員です。入団すると、活動服や被服が貸与され、消防団活動に必要な知識・技術習得のための講習会や、研修会に参加する機会があります。また、一定の年額報酬や、災害や訓練に出動した実績に応じた報酬も支給されます。（詳しくはp.16を参照ください）

活 動 内 容 紹 介

消防団員は災害時の対応はもちろん、普段から訓練や地域住民への防火・防災の啓発活動を行っています。

具体的な消防団員の平常時の活動内容は、災害現場での活動を想定した訓練のほか、住民への防火指導、応急手当指導など地域に密着した活動や、地域で開催されるお祭りやイベントで警戒活動を行い、地域の防災力向上に貢献して

います。

また、災害時の活動内容は、火災が起きた際は自宅や職場から現場へ駆けつけ、消火活動を行うほか、消防署と連携して救助活動や応急救護活動を行います。風水害時には、増水した河川の警戒活動を行うことで、地域の安全を守る役割があります。

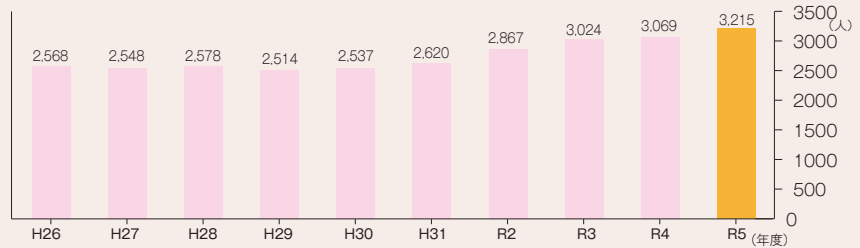
<消防団の1年> ※23区の例

1月	消防団始式	新年を迎え、地域の安全を祈願するとともに、長年功労があった消防団員を表彰します。
	東京消防出初式	消防車両の行進、音楽隊の演奏、江戸消防記念会による木遣り・はしご乗りなどが行われます。消防団員も東京消防庁職員とともに参加します。
5－6月	水防訓練	梅雨を前に、土のうの使い方を訓練します。
	消防操法大会	各消防団で可搬ポンプ操法技術を競います。10月には都内の代表消防団が参加する都消防操法大会もあります。
7－8月	祭りなどの警戒	花火大会など地域のイベントでの事故を防ぐため警備にあたります。
9月	総合防災訓練	都総合防災訓練や各地域の防災訓練で応急救護指導や初期消火訓練の指導をします。
10月	消防団点検	整列や放水など日頃の訓練の成果を消防総監が確認します。消防団のPRのため市民にも公開されます。
11月	震災訓練	首都直下地震を想定し、参集訓練や情報伝達訓練、放水訓練などを消防署と合同で行います。
12月	年末消防特別警戒	「火の用心」を呼びかけます。

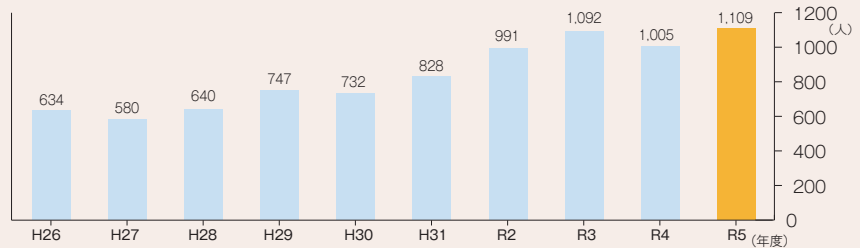
消防団員数の推移

東京都の場合

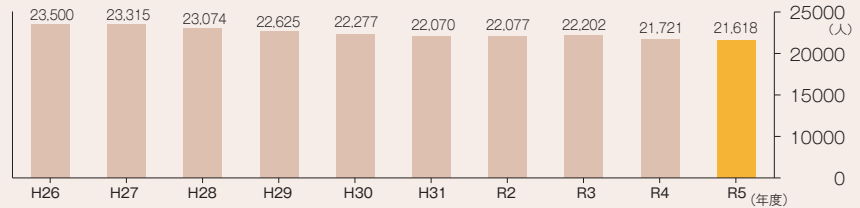
1 女性消防団員数の推移



2 学生消防団員数の推移

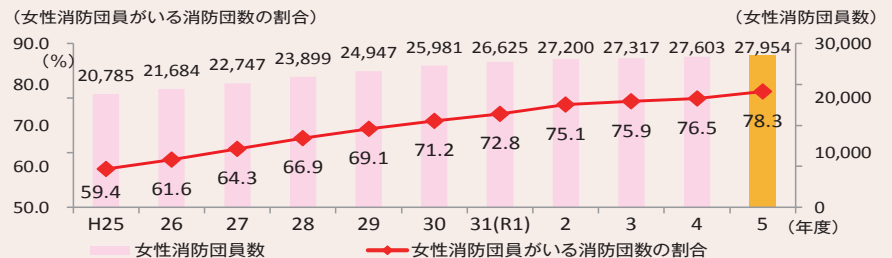


3 消防団員数の推移

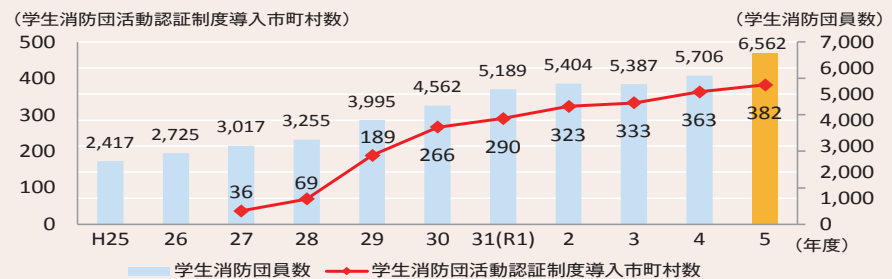


全国の場合

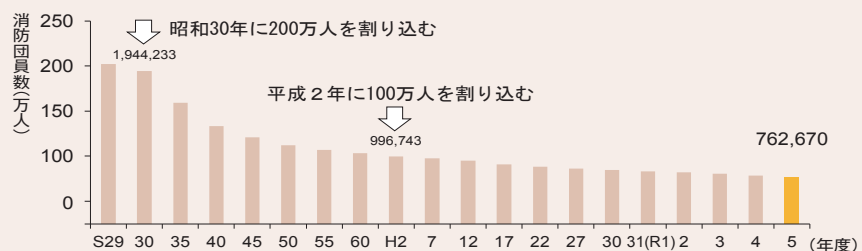
1 女性消防団員数の推移



2 学生消防団員数の推移



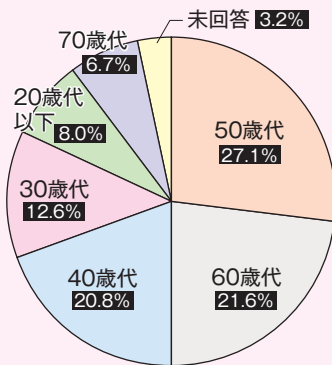
3 消防団員数の推移



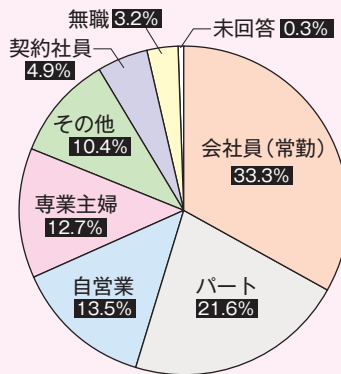
女性消防団員アンケート結果

n=691

年齢

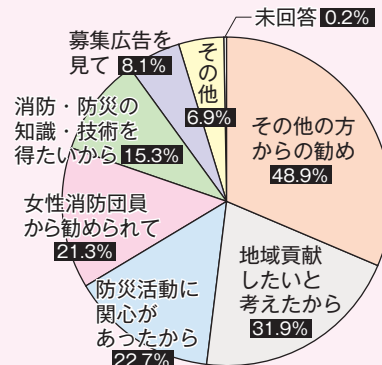


職業



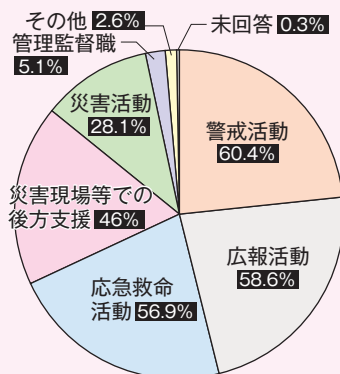
入団のきっかけ

(複数回答あり)

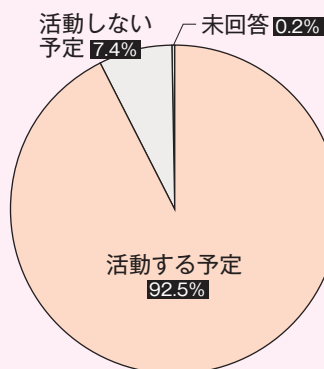


主な業務内容

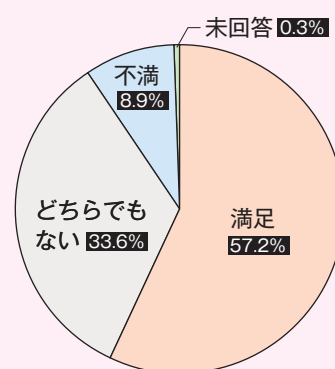
(複数回答あり)



継続の意思



消防団活動への満足度



消防団活に満足の理由

- 地域の方のお役に立つこと、身近な人を守ることを知ることができる。
- 防災について積極的になれる、様々な活動を通して知識も身に付いたため。
団員同士仲良くして下さり楽しく活動できている。
- 希望であった救命指導員として活動できるようになったから。
- 活動をしている間、充実している時間を過ごしていると思えるから。
- 家事育児仕事がある中、自身のできる範囲で地域の防災に携わることができるから。
- 住民の方に感謝の言葉をかけていただけるから。
- 日々の暮らしに役立てることができる知識も学べるから。
- 女性なので体力的にできることと出来ない事がありますが、気を配ってもらえる。
- 様々な年代とコミュニケーションが取れる。
- 仲間がいるから、楽しい。



プロフィール

年齢 20代
消防団歴 6年6か月
階級 団員
職業 フリーデザイナー



インタビューの様子はこちらから

消防団活動のある一日のスケジュール (休日の講習会の場合)

- 9:00 集合
- 9:30 救命講習開始
- 12:00 救命講習修了
- 12:30 一時帰宅(昼食)
- 13:00 通常訓練合流
- 16:00 解散



AED訓練に取り組む

Q: 入団のきっかけはなんですか？

A: 中学時代父が指導していた救命講習を受講した時に興味を持ち、成人した後、その父に良い経験になるとすすめられたのが入団のきっかけです。

Q: 入団する前、不安や疑問に思っていたことはありますか？

A: 体力にあまり自信がなかったのと、入団当時は学生だったので学業と両立できるかとても不安でした。

Q: 実際に入団してみて、不安や疑問に感じていたことはどう変化しましたか？

A: 無理のない範囲で活動できることと、得意分野を活かせること、さらに分からないことがあっても周りの方が必ずサポートしてくれたので、安心して活動できることがわかり、その不安は解消されました。

Q: あなたはどのような活動を行っていますか？

A: 現在は、救命講習の指導員としての活動と、広報、さらに地域の防災訓練、警戒、機関点検^{*}、所属消防団のHP作成業務などを担当しています。

Q: 入団して良かったと感じることは何ですか？

A: 消防団の活動を通して、地元により親しみを持つことができたことと、活動に関わる様々なスキルや経験を得られることです。

Q: 消防団で活動する上で、どのようなことがやりがいになっていますか？

A: また、幼少期からお世話になっている地域に貢献することで、誰かの役に立てることや、経験

を通じた自分のスキルアップを感じられることがやりがいです。

Q: お仕事やプライベートと消防団活動を両立するための秘訣は何ですか？

A: 周囲から理解を得られるように自分からコミュニケーションをとったり、消防団活動を知ってもらえるようにアプローチすることで、仕事と団活動を両立することができるようになりました。

Q: 消防団での活動が、日常生活で役に立ったことはありますか？

A: 街中で倒れている人を見かけた時に、すぐに駆け寄って冷静な対処することができたのは、団活動の中で得た知識と普段の訓練のおかげで、とても役に立ちました。

Q: 消防団で活動する中で、印象的だったエピソードはありますか？

A: 消防団の団員の皆さんは、普段はフレンドリーでユーモアあふれる方々ばかりですが、訓練の時に見せる真剣な表情はとても頼もしい方々ばかりで、とても印象に残っています。

Q: 現在、入団を考えている女性へのメッセージをお願いします。

A: 消防団には、様々な年齢や職業の方々が在籍しており、分団長のもと和気あいあいとしながらも真剣に地域防災をはじめとした多種多様な活動をしています。女性であっても自分の個性を生かせる場がきっとあると確信しています。

^{*} 訓練で使った車両や小型ポンプが正常に動くか点検する業務のこと。



プロフィール

年 齢 40代
消防団歴 9年
階 級 団員
職 業 パートタイマー



▲
インタビューの
様子はこちらから

消防団活動のある一日のスケジュール (月1回の平日定例会)

- 19:30 集合
- 20:00 所作・規律^{*1}の確認
- 20:30 定例会議（イベントや地域活動の手伝い、役割確認など）今後のスケジュールの確認など
- 21:30 解散



訓練の様子

Q：入団のきっかけは何ですか？

A：よく聞いていたラジオ番組のコーナーで消防団の活動の紹介があり興味がわいたことと、応急手当が身について人のために役立つ活動が出来ると思い入団を決めました。また、制服を着るという活動にあこがれていたのもきっかけです。

Q：入団する前、不安や疑問に思っていた事がありますか？

A：男性主体の活動なのではないか、女性でも役に立てるのか、うまく皆さんと活動していけるのかという心配はありました。

Q：実際に入団してみて、不安や疑問に感じていたことはどう変化しましたか？

A：先輩方が、私が入団したことをとても歓迎してくださって、わからないことや団員として必要な知識や規律などを丁寧に教えてくれて、女性でも自信をもって活動でき、気がつけば不安はなくなっていました。

Q：あなたはどのような活動を行っていますか？

A：現在では、応急手当指導員の資格を取り、地域の学校や区役所などで行う救命講習会の指導、アドバイス、火災予防運動で地域での広報活動や、消防操法大会に選手として出場したりなど、いろいろな活動をしています。

Q：入団して良かったと感じることは何ですか？

A：地域の知り合いが増えたり、色々な職業についている団員の方々と触れ合うことで、いきいきと生活することができるようになりました。

Q：消防団で活動する上で、どのような事がやりがいになっていますか？

A：表彰などで高い評価をもらったり、救命講習の生徒さんに感謝されることにやりがいを感じます。

Q：消防団での活動が、日常生活で役に立ったことはありますか？

A：消防団活動をしたことによって、近くで具合が悪くなった方がいても慌てず冷静に対処できるようになりました。家庭でも、学んだ「ロープワーク^{*2}」が新聞紙や段ボールを束ねるのに役に立っています。

Q：消防団で活動する中で、印象的だったエピソードはありますか？

A：以前中学校で応急手当指導をした数年後、ある高校で指導に行ったら、「前にあなたに教えてもらったのですが覚えていますか？」と受講生が声をかけてくれたときはとても嬉しかったです。

Q：現在、入団を考えている女性へのメッセージをお願いします。

A：消防団活動は、女性にできるやりがいがある活動がたくさんあります。素敵な制服、カッコいい活動服もありますので、私のように制服を着てみたいという動機からでもいいのでぜひ参加してみてください。

^{*}1 消防団活動をするうえで必要な作法や行動を身に付けるための訓練。団体行動と団結力を高めるためにも重要な訓練です。

^{*}2 ロープの取り扱いのための訓練のこと。消防署員指導の下、基本結索の方法や収納の際の結索等を覚える訓練のこと。



プロフィール

年齢 20代
消防団歴 1年11か月
階級 団員
職業 不動産会社社員



▲
インタビューの
様子はこちらから

消防団活動のある一日のスケジュール (団点検^{※1}の一日)

- 9:00 団小屋^{※2}集合
- 10:30 消防学校にてリハーサル開始
- 11:00 団活動開始
- 12:00 休憩
- 13:00 引継ぎ、リハーサル 各種点検開始
- 15:30 本番開始 16:00終了



地域の活動に
取り組む

Q：入団のきっかけは何ですか？

A：不動産会社に勤務している中で、毎月家賃を持参するお客様の中に消防団員（今は先輩団員）の方がいて、世間話から消防団の話になり、気がついたら入団していました。とはいっても、もともと埼玉の地元で父が消防団に入っていたこともあり、消防団活動は身近なものではありませんでした。

Q：入団する前、不安や疑問に思っていた事がありますか？

A：消防団という名前は知っていても、具体的にどんな活動をしているのか？女性が少なく孤立していないか？住んでいる地域ではなく、職場のある地域の消防団へ入団しても良いかなど、不安要素はたくさんありました。

Q：実際に入団してみて、不安や疑問に感じていたことはどう変化しましたか？

A：先輩消防団員の皆さんはとても優しく、気さくに話しかけてくれたので、すんなり打ち解けることが出来ました。私は団の中では若い方であつ女性なので、皆さん物珍しそうに話しかけてくれました。

Q：あなたはどのような活動を行っていますか？

A：上級救命講習や歳末警戒などの活動をしています。また、先輩からの誘いを受け、50人近い分団員の中で操法大会の選手をさせていただ

ています。選手以外の団員も練習時は、ホース収納や資器材撤収を手伝ってくれ、本番でも最大限サポートしてくれたので、反省会では皆で涙し、より絆が深まった気がして、やりがいや楽しさを感じています。

Q：消防団での活動が、日常生活で役に立ったことはありますか？

A：団活動のおかげで、人助けという部分で積極的になった気がします。道に迷っている人を見かけた時や電車のドアにベビーカーがひっかかった時には、とっさに助けていました。

Q：現在、入団を考えている女性へのメッセージをお願いします。

A：大人になると、職場と家の行き来で自分の輪を広げることが難しくなると感じます。そんな中で消防団は、様々なお仕事をしている団員の皆さんと触れ合うことで、いろんな世界観を知ることができます。本来は、地域を災害から守ることがメインですが、そこに固執することなく一種のコミュニティとして消防団を理解して、気軽に入団いただければよいと思います。私も地域のお祭りに参加できるまでなじむことができました！

※1 日頃の訓練成果を確認するとともに地域住民等に消防団への理解を深めてもらうため、消防団の活動を積極的に紹介する行事。

※2 「だんごや」と呼ばれ災害時に必要な資器材がおかれている場所のこと。



プロフィール

年齢 30代
消防団歴 2年1か月
階級 団員
職業 空港の施設巡回警備員



インタビューの様子はこちらから

消防団活動のある一日のスケジュール (団点検の一日)

9:00~11:30 救命講習のお手伝い
13:00~ 定例訓練 ポンプ試験 放水試験など
15:30 終了
16:00 帰宅



AEDによる応急措置

Q: 入団のきっかけは何ですか?

A: 以前住んでいたところの郵便局内で消防団員募集のポスターを見て興味を持ったのがきっかけです。まずはその場所の分団に入団しましたが、転職にともなって転居したので、現在の分団に転属しました。

Q: 入団する前、不安や疑問に思っていた事がありますか?

A: 消防団は火災が起きたら燃えさかる炎の中に入ることかな、だとしたら怖いな、危ないなと思っていました。

Q: 実際に入団してみて、不安や疑問に感じていたことはどう変化しましたか?

A: 幸いにも担当区域内で大きな火災がなく、恐怖や危険とかけ離れていました。でも、有事への備えや緊張感は持ち続けています。

Q: あなたはどのような活動を行っていますか?

A: 応急手当指導員の資格を取得し、救命講習の会場で企業の社員さんや市民の方々に心肺蘇生の方法やAEDの使い方指導をしています。また、夏の祭礼やキャンプファイヤーの警備なども行なっています。

Q: 入団して良かったと感じることは何ですか?

A: いざというときに役立つ防火防災や救命救急の知識、技術が身についたこと、現役消防官や救急救命士の方から貴重な話を聞いて技術を向上させられたことです。また、様々な年代、職業の仲間ができたことです。

Q: 消防団で活動する上で、どのような事がやりがいになっていますか?

A: 徒歩で担当地域内の夜警を実施中に住民の方

ら「ご苦労様です」と声をかけていただけると、自分たちが街を守り、安心を与えているのだと実感できて嬉しくなりとてもやりがいを感じます。

Q: お仕事やプライベートと団活動を両立するための秘訣は何ですか?

A: 仕事や家庭と両立させるためには、決して無理することはないと思っています。団員の皆さんもそれぞれに事情があり理解をしてくれるので、それらを犠牲にしてまで活動することはせず、できる範囲でコツコツ続けるだけでも知識や技術は必ず身に付き団活動を続けることができます。

Q: 消防団での活動が、日常生活で役に立ったことはありますか?

A: 先日自転車で通勤中に倒れている人を発見し、意識はあったため「回復体位^{*}」をとって気道確保し、適切に救急隊に引き継ぐことができた。動じることなく冷静に対処できたのは、消防団活動のおかげかなと思いました。

Q: 現在、入団を考えている女性へのメッセージをお願いします。

A: 私も最初は消防団に対し「怖そう、危なそう、大変そう」というイメージを持っていました。しかし、実際はそうではありません。会社や学校では学べない貴重な体験や知識の宝庫です。何かに挑戦したい、新しい仲間に出会いたい、自分を変えたい方にうってつけだと思います。いざというとき地域や大切な人を守るようになりませんか。

^{*} 意識を失っている方の窒息を防ぎ、気道を確保するためにとる横向けの体位。安全な状態を確保できるように手足や体の向きを整える方法。



プロフィール

年齢 50代
消防団歴 9年3か月
階級 部長
職業 大学教員(芸術社会学)



インタビューの様子はこちらから

消防団活動のある一日のスケジュール (平日)

- 19:30 分団会議（活動担当決めなど）
イベント活動について情報共有
終了後夜間パトロール開始
4人1組で町会警備のためパトロール
- 20:20 パトロール内容の報告
次回の訓練時間や内容の確認
- 20:30 解散



イベントで子どもたちと一緒に
消火器体験

Q：入団のきっかけは何ですか？

A：前から社会貢献活動に興味がありました。東日本大震災をきっかけに、大学で授業をしているときなどに突然地震が起きた際に救助の知識があればと思い、在勤者として入団することにしました。

Q：入団する前、不安や疑問に思っていた事がありますか？

A：実際にホースを持って走り回るような運動系の活動は難しいと思っていました。

Q：実際に入団してみて、不安や疑問に感じていたことはどう変化しましたか？

A：案ずるより産むが易し。プロのようにできませんが、体験することはとても大切だと思います。

Q：あなたはどのような活動を行っていますか？

A：AED関連。訓練（合同点検、消防隊と連携訓練、震災訓練など）。広報（駅前、巡回など）。研修参加「警防科研修^{*1}」、手話など。操法大会、「始式^{*2}」ほか支援、パトロール。イベント警戒、東京マラソンほか警備。町会の防災支援を行っています。

Q：入団して良かったと感じることは何ですか？

A：消防団活動のおかげで、消防の仕事への理解が深まり、消防署の専門家に教えていただけることで、消防、救急に関する知識が増えました。さらに、町会や近隣学校への救急や消防の指導で喜んでいただけることで、地域の魅力に気づくことができ、入団して本当によかったと感じています。

Q：お仕事やプライベートと団活動を両立するため

の秘訣は何ですか？

A：仕事やプライベートと両立させるために、健康に気を付け、決して無理はしないように心がけています。そのことは団の皆さんも理解してくれるので、こちらとしても出来ることへ最大限の努力をしています。

Q：消防団での活動が、日常生活で役に立ったことはありますか？

A：日常生活の中で、AEDの場所を確認するなどの危機管理を意識するようになりました。

Q：消防団で活動する中で、印象的だったエピソードはありますか？

A：小学校にAED指導に行った際のこと。班に分かれて、現場を想定しながら子供たちと楽しく実習をしました。最後に、私の班の子供たちが一人一人「ありがとうございました」とスキップしながら挨拶しに来てくれたことです。

Q：現在、入団を考えている女性へのメッセージをお願いします。

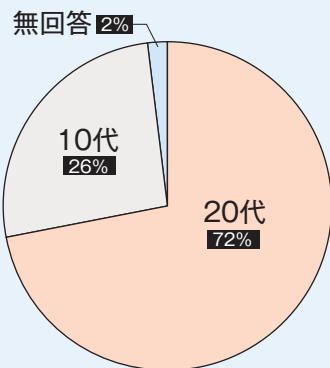
A：できる範囲で少しでも安全安心に資する経験や知識を積むことは、決して無駄ではありません。さらには、小さな社会貢献にもなる点では、精神的な喜びもあります。また、さまざまな人々との出会いは、社会を見る視野を広げてくれます。消防団活動は、多忙な現代社会に生きる女性にとっても、時間の合間を縫ってでも参加する意義のある貴重な経験となると思います。

^{*1} 火災防ぎょと安全管理についての講義を受けた後、屋外で実科訓練を行う事。

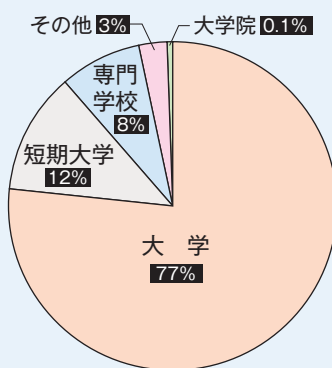
^{*2} 1年の始まりに際して、全団員が一堂に会し士気高揚を図り、市民を守る決意を新たにするために行なう式典。

学生消防団員アンケート結果

年齢

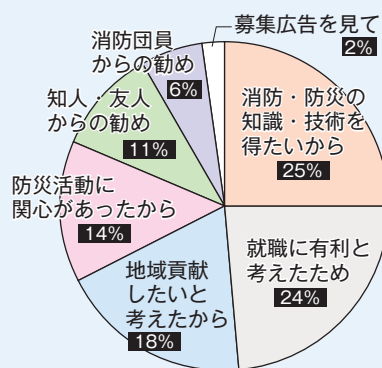


所属別



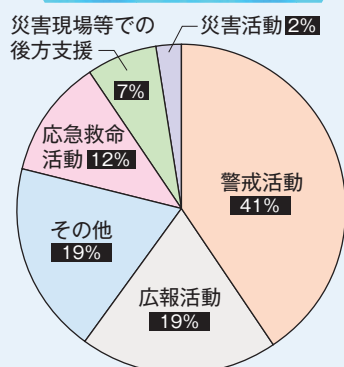
入団のきっかけ

(複数回答あり)

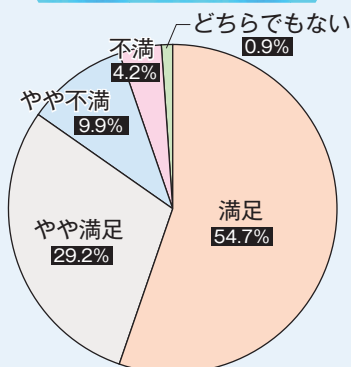


主な業務内容

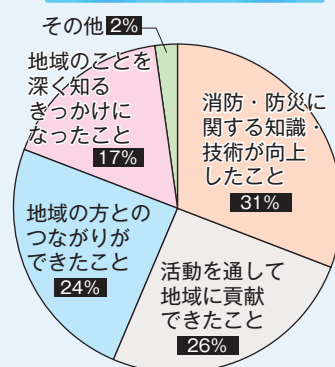
(複数回答あり)



消防団活動への満足度



入団して良かったと感じたこと



印象的だったエピソード

- 歳末警戒や地域のお祭りなどの行事を通して、地域の方々と触れ合えたこと・感謝をいただいたこと。
- 建物解体訓練で、ハンマーなどを使いドアを壊したりハシゴ車に乗ることができたことです。消防団に入ったからこそできた活動がとても楽しく印象に残っていて、就活のエピソードにも使わせて頂きました。
- 心肺蘇生法を学べる講習会で、AEDの取り扱い方を学ぶことができました。
- 地域のお祭りなどに消防団で参加した際に、普段関わらない地元の方と関わることができ、地域に貢献できている気がして嬉しかったです。
- 地域住民の方に「ありがとう」や「お疲れ様」と言っていたいただいたこと。
- 自分よりふたまわり以上の方々と一緒に活動する経験は消防団でしか味わえない経験だと思います。活動やポンプ操法大会、食事など全てが大切な思い出です。
- 火災現場に出動する経験が2回もあった。／現場を体験できるのは将来的にも大きな経験になる

入団した感想など

- 知識を身につけておくことで救える命があるということを知って欲しいです。
- ほとんど災害などで出動がなく、実際に活動するのは水出し訓練や祭りでの活動がメインになると思います。
- AEDの使用方法や消火活動など、普段の生活ではあまり体験しないことができ、とても楽しいです。今後役に立つと思います。
- 私は、消防団活動を通して様々な経験をすることができました。この経験は地域貢献という、普段の学生生活では経験のできない。これからの人生にとって有意義なものだと思います。消防団に入って共に地域をより良くする活動をしませんか。
- 自分の住んでいる地域を自らの手で守ることにやりがいを感じる。
- バイトやクラブ活動では経験できない社会の勉強をすることができ、消防を目指す人にとってはこれ以上ない環境だと思う！
- 消防や防災に関する知識を得ることはもちろん、操法大会などを通して分団員の方々と切っても切れない繋がりを作ることができます。辛いことよりも楽しいことの方が多いのでぜひ入団して体験してみてください。



プロフィール

消防団歴 1年3か月
階 級 団員



▲
インタビューの
様子はこちらから

消防団活動のある一日のスケジュール (平日の主な活動)

16:00 大学での講義終了
19:00 集合
担当地域を10人程度で巡回
21:00 解散



消火訓練を補助

Q：あなたが学校で最も力を入れて取り組まれていることは何ですか？

A：将来、消防官として働きたいと考えており、大学の講義や実習での救急救命士の勉強をしています。

Q：入団のきっかけはなんですか？

A：東京の地域や住民の方々について知識や理解を深めたいと考えたとき、そこで活動する消防団のことを知り、興味を持ったため入団しました。

Q：あなたはどの様な活動を行っていますか？

A：現在は、災害などで使用する資器材点検やその際の訓練、火災予防のための警戒活動、地域のイベントでの活動をしています。

Q：入団して良かったと感じることは何ですか？

A：自分たちの地域を守りたいという志を持った消防団員と接する機会は、大学生活ではなかなかないので、そのような方々がいらっしゃるおかげで安心安全な暮らしができていたことを知れてよかったと感じています。また、地域住民から感謝の言葉をいただいたときに、地域のために活動する達成感を感じ、そのような仕事に就きたいという目標を改めて感じました。

Q：消防団で活動する上で、どのようなことがやりがいになっていますか？

A：私は東京が地元ではないので、東京やそこに暮らす住民のことなど何も知らない状態でしたが、

消防団の活動を通して、いろいろなことを知ることができ、地域の方々の暮らしの安心安全という心の支えになれることです。

Q：学業やプライベートとの両立はどのように行っていますか？

A：学業とプライベートと両立させるため、何事も早めに行動することで余裕を持てるよう心がけています。

Q：消防団での活動が、日常生活で役に立ったことはありますか？

A：日頃から災害時の対応など今まで意識しなかったことについて考え、ボランティア活動に参加するなど積極的に行動するようになりました。

Q：消防団で活動する中で、印象的だったエピソードはありますか？

A：小学校でのイベントに消防団員として参加した時、防災だけでなく、地域の社会貢献活動も行うことに驚くとともにうれしく感じました。

Q：現在、入団を考えている学生へのメッセージをお願いします。

A：消防団の活動を通して、地域の方々との関わりを深めることができ、地域のことをもっと詳しく知ること、災害時などの緊急事態でも行動ができるようになります。一緒に私たちの暮らしを私たちの力で守っていきませんか。ぜひ、消防団に入団し、一緒に活動しましょう。



プロフィール

消防団歴 3年4か月
階 級 団員



▲
インタビューの
様子はこちらから

消防団活動のある一日のスケジュール (応急指導)

- 9:00 普及員として応急指導の講師
演習と講義
13:00 応急指導 実技とサポート
16:00 終了



消防団員として
整列！

Q：あなたが学校で最も力を入れて取り組まれていることは何ですか？

A：幼い頃から消防官になることを夢としており、現在大学で救急救命学科に通い、救急救命士になるための勉強をしています。

Q：入団のきっかけはなんですか？

A：大学在学中に消防団員となることで、少しでも早く地元の役に立ちたいと思ったことです。

Q：あなたはどの様な活動を行っていますか？

A：市民の方や男性消防団員の方へ向けての応急指導、広報活動などを行っています。

Q：入団して良かったと感じることは何ですか？

A：応急手当の知識を1人でも多くの方に広める活動が出来ていることだと思います。さらに、自分の知識や指導力の向上に向けて沢山のアドバイスを頂くことや、入団していなければ関わることのできない多くの方と接することで自分の成長を実感することができて本当によかったと思っています。

Q：消防団で活動する上で、どのようなことがやりがいになっていますか？

A：実際の消火活動などは行いませんが、応急手当指導や火災予防の広報活動などは、辛く悲しい思いをする方を1人でも多く減らすための活動だと考えています。そのため自分の指導や広報のやり方次第で人生が変わってしまう方がいるかもしれないという責任感があると同時にやりがいがあると感じています。

Q：学業やプライベートとの両立はどのように行っていますか？

A：大学の授業や実習等でなかなか活動に参加がで

きない時期がありましたが、所属する女性隊の隊長を初め団員の方が理解して下さり、日程調整の際にわがままを聞いて下さったり、オンラインでできる活動をさせて頂いたり、たくさんのお力を借りたことで両立出来ています。

Q：消防団での活動が、日常生活で役に立ったことはありますか？

A：私は、人前に立ち、話をすることがとても苦手でしたが、応急指導の準備のために訓練を行ったり、自主練習をしたり、実際に指導をする場を多く経験したことで、今では人前でも話が出るようになり苦手を克服しました。

Q：消防団で活動する中で、印象的だったエピソードはありますか？

A：総合防災訓練の応急指導の際に、ご高齢の女性の方が「夫の心臓が悪いのでいつ何が起きても大丈夫のように教えてください」と言い自分のところに来て下さった時、指導することの責任を強く感じ、知識を増やすだけではなく、1つでも多くの知識を伝えて役に立ちたいと思ったことがとても印象に残っています。

Q：現在、入団を考えている学生へのメッセージをお願いします。

A：私は、学生のうちに消防団に入り、様々な方と関わることで、人として成長できたと感じています。学生のうちに消防団に入ること、地域の方の役に立つ活動ができるのはもちろんですが、学生生活ではできない様々なことを経験できるので、人として大きく成長できます。学生消防団員として一緒に頑張りましょう!!



プロフィール

消防団歴 2年10か月
階 級 団員



▲
インタビューの
様子はこちらから

消防団活動のある一日のスケジュール (操法大会の早朝訓練。主に土日)

- 6:00 集合
- 6:30 訓練開始
- 8:30 訓練終了片付け開始
- 9:00 終了後、皆で朝食
- 10:30 解散



操法大会にて

Q：あなたが学校で最も力を入れて取り組まれていることは何ですか？

A：現在大学でボランティア活動を中心としたサークルに所属し、その活動に力を入れています。

Q：入団のきっかけはなんですか？

A：ある日たまたま自宅から見える小学校で、消防団の操法の訓練を見て、ただかっこいいという思いで入団いたしました。

Q：あなたはどのような活動を行っていますか？

A：消防活動訓練をはじめとし、地域住民に対して防火防災の呼びかけ、消防団の広報活動などを行っています。

Q：入団して良かったと感じることは何ですか？

A：消防団は社会人の多い組織ですので、学生同士では体験できない経験や社会勉強ができ入団して本当によかったと思っています。

Q：消防団で活動する上で、どのようなことがやりがいになっていますか？

A：消防団活動で、特に人と関わる活動(防火呼びかけ、広報活動)は、地域の方と接する機会が多いので楽しく、人のため地域のためになると実感できて、とてもやりがいを感じています。

Q：学業やプライベートとの両立はどのように行っていますか？

A：消防団活動は任意なので、出動できる時に活動をすることで、学業との両立を図っています。

Q：消防団での活動が、日常生活で役に立ったことはありますか？

A：防災や救命は何かあった時に役立つ知識ですので、いざ火災や災害が発生した時には、役に立つ団員になることができれば良いと常に危機感を持って訓練に励むように心がけています。

Q：消防団で活動する中で、印象的だったエピソードはありますか？

A：操法大会で番員賞(個人賞)を取った時です。分団全員で取り組んだ大会でしたので、やりがいはとても大きいものでした。

Q：現在、入団を考えている学生へのメッセージをお願いします。

A：学生が消防団活動をすることは、大人との関わりを持てるので、様々なことを経験できることが大切だと感じています。防火防災や、救命の知識も増えるので、損得を気にせずに行動できる学生がいらっしゃいましたら、入団をおすすめいたします。学生組織では経験できない社会体験ができるはずです。



プロフィール

消防団歴 6か月
階 級 団員



▲
インタビューの
様子はこちらから

消防団活動のある一日のスケジュール (平日)

- 9:00 授業
- 18:30 集合
- 19:00 月一ミーティングと共有事項の確認
- 20:00 操法大会訓練(サポート)
- 22:00 解散



放水訓練

Q：あなたが学校で最も力を入れて取り組まれていることは何ですか？

A：学校では救護ボランティアに積極的に参加しており、授業で学んでいることを実践し、能力を高めることが大切だと考えています。

Q：入団のきっかけはなんですか？

A：将来消防官になりたいと思っています。消防官になる上で消防団との関わりが、とても大切であると思い、今の段階から消防団に所属して、様々なことを経験したいと思い入団しました。

Q：あなたはどの様な活動を行っていますか？

A：操法大会の補助、地域のお祭りの救護活動、救命講習のチラシ作り、周辺地域の消防団女性隊との交流会参加、救命講習などを行っています。

Q：入団して良かったと感じることは何ですか？

A：入団して、操法大会の補助をする上で周囲に合わせるために視野を広くすること、全体で合わせることなどの大切さを知ることと、学生生活では味わえない規律を学ぶ大切さを経験することができて、良かったと感じています。

Q：消防団で活動する上で、どのようなことがやりがいになっていますか？

A：操法大会で、メンバーの方々が多くの方に褒めていただいた時、自分自身もサポートできてとても良かったと誇りに思いました。

Q：学業やプライベートとの両立はどのように行っていますか？

A：消防団の活動がある日は、夜6時くらいまで学校に残り、勉強してから消防団の活動をするようにしています。土日で消防団活動がない日はライブに行くことが趣味なので、ライブの時間までカフェで勉強したり工夫しています。

Q：消防団での活動が、日常生活で役に立ったことはありますか？

A：消防団活動の中で「ロープワーク^{*}」を学んだのですが、友人とキャンプに行ったときにとても役に立ったのはうれしかったです。

Q：消防団で活動する中で、印象的だったエピソードはありますか？

A：お祭りの救護活動に参加した際、長年在籍している団員とペアで巡回したのですが、その団員は、すれ違う人の多くと知り合いだったことです。地域での活動に積極的に参加することで交流を深めることができると実感しました。

Q：現在、入団を考えている学生へのメッセージをお願いします。

A：学生の時から入団しておくことで、今までに経験したことがないことを、実際に体験することができます。入団する前は、私自身とても不安でしたが、女性隊のみならず消防団全体でサポートしてくれるので、できる範囲で活動することができます。ぜひ一緒に頑張りましょう！

※ ロープの取り扱うための訓練のこと。消防署員指導の下、基本結索の方法や収納の際の結索等を憶える訓練のこと。



プロフィール

消防団歴 1年1か月
階 級 団員



▲
インタビューの
様子はこちらから

消防団活動のある一日のスケジュール (早朝操法訓練)

- 7:45 集合
- 8:00 消防実習(火災予防)
- 9:30 放水訓練及び救出訓練
- 12:00 終了(自宅で昼食)
- 13:00 学校で授業



訓練の様子

Q：あなたが学校で最も力を入れて取り組まれていることは何ですか？

A：幅広い学問を学び、課外活動への参加や多様な他者と関わることでなるべく多くの物事に触れ、視野を広げることにより力を入れて取り組んでいます。

Q：入団のきっかけはなんですか？

A：近い将来大きな地震や災害が必ず来ると言われているこの東京に住むにあたって、“それ”が来た時に何もできない自分が嫌で、たとえ微力だったとしても無力でありたくないと思ったのが直接のきっかけになります。

Q：あなたはどのような活動を行っていますか？

A：現在は、災害時に使用する資機材の点検や整備、操法訓練や防災訓練などの活動が中心になっています。

Q：入団して良かったと感じることは何ですか？

A：地域の情報を先輩団員の方から教えてもらうことで、住んでいる場所に愛着がわいてきます。また、普段大学では関わることのできない幅広い年代の方と関われることも入団して良かったと思えるところです。

Q：消防団で活動する上で、どのようなことがやりがいになっていますか？

A：活動服や制服などを着て活動をしていると、周りで生活している方々を見て、地元出身ではない私でも、同じ地域住民の日常を守りたいと思えることです。

Q：学業やプライベートとの両立はどのように行っていますか？

A：住んでいる地域から大幅に離れた場での活動は

少なく、比較的スケジュール調整がしやすいので、あまり無理することなく取り組むことができます。

Q：消防団での活動が、日常生活で役に立ったことはありますか？

A：消防団活動のおかげで、地域で暮らすにあたって、自分自身も守られた空間で生活している感覚があり、何かあっても近くに頼れる消防団の方々がいるので安心感をもって生活ができることです。

Q：消防団で活動する中で、印象的だったエピソードはありますか？

A：消防操法大会で「3番員※」をやった際、訓練で資機材の仕組みや操作、取り扱いについてたくさん教えていただき、学び覚えるきっかけになったことが特に印象に残りました。

Q：現在、入団を考えている学生へのメッセージをお願いします。

A：学生として消防団に入団すると、大学という限られた狭いコミュニティだけではなく、自分の暮らす地域にも居場所を得ることができ、若いからこそ住んでいる地域へ活かせる力もあると感じられます。そのことで、よりその地域の一員として暮らしている実感を持つことができます。地域密着だからこそ様々な人の多様な特性が生かせる場だと思います。ぜひ、あなたの力を消防団でも活用してみたいかがでしょうか。消防団員として、そして東京都に暮らす地域住民として、あなたの一歩をお待ちしております。

※ 操法は4人組で実施するが、その中で3番のゼッケンをつけ、決まった事柄を行う団員の名称。

消 防 団 Q & A

Q 消防職員と消防団員はどう違いますか？

A 消防職員は、消防署に24時間体制で勤務する消防士や消防本部に勤務する職員で、市町村の職員と同じ常勤の地方公務員です。一方、消防団員は普段は別の仕事をしています。火災、地震、風水害の発生時や訓練に自宅や職場から出動して活動します。身分は非常勤特別職の地方公務員で、市町村が定める条例に基づいて、年額報酬と、火災や訓練などで出動した際の手当（費用弁償）が支払われます。

Q 仕事が忙しいのですが消防団に入団できますか？

A 仕事や家庭との両立ができるよう工夫する消防団が増えています。また、学生や女性も消防団の活動に参加しやすいよう、活動範囲を限定した「機能別団員・機能別分団」制度を導入している消防団もあります。詳しくは、23区は最寄りの消防署、それ以外は市町村にご相談ください。

Q 消防団のポンプ操法訓練とは何ですか？

A 火災現場で迅速かつ安全に消火活動を行うため、ポンプの操作方法を習得する基本の訓練です。また、各消防団員が高めた技術を披露する場として、防火水槽から給水し、的に放水するまでの速さや正確さ、動きの美しさを競う操法大会が市区町村や都道府県、全国で行われています。

消 防 団 の 待 遇

★報酬制度

- ・報酬が支払われます。(自治体によって異なる。23区は年額4万2,500円～)
- ・災害や訓練などで出動した場合、手当（費用弁償）が支払われます。(23区は1回4,000円、災害活動は1回8,000円)

★退職報奨金

- ・在団5年以上で退団すると、勤務年数や階級に応じて退職報償金が支払われます。

★被服等の給貸与

- ・活動に必要な制服や活動服、防火衣などが支給されます。

★公務災害補償

- ・活動中に死亡、もしくはケガをした場合には治療費や休業のための補償を受けることができます。

★消防団員の資格試験優遇措置

- ・一定の消防団活動を行ったものに対して、学科試験免除措置を受けられる資格試験があります。

★学生消防団活動認証制度

- ・消防団員として活動した学生に対し、都知事または市町村長が交付する活動証明書。就職活動の自己PRの際に活用できます。



制服(男性用)の例



防火服の例

消 防 団 へ の 入 団 条 件

- ・18歳以上の健康な方
- ・都内に在住・在勤・在学をされている方（地域により資格が異なります）

消 防 団 へ の 入 団 方 法

（１）電話による問合せ

23区にお住まいの方

- ・最寄りの消防署または
TEL ▶ 0120-119-588
午前9時から午後5時まで（土・日・祝日を除く）にお電話でお問合せください。

市町村にお住まいの方

- ・各市町村にお問合せください。

（２）入団エントリー（インターネット）

インターネットから消防団への入団エントリーができます。
以下のQRコードより登録をしてください。



23区内に
お住まいの方は
こちらから



市町村に
お住まいの方は
こちらから

入団エントリーをすると、3日以内（土・日・祝日を除く）に
消防署または市町村の担当者からお電話します。

消防団員募集

インターネットから消防団への入団エントリーができます。入団を希望する方及びご興味のある方は、下記リンクから登録してください。

23区内にお住まいの方

市町村にお住まいの方



詳細は
こちらから

